

# 山菜(マタタビ・モミジガサ)の育苗技術の検討

林業試験場

## [研究のねらい]

山菜類には、高齢者の多い山村地域で、地域資源として栽培が望まれる作目が数多くある。

本研究では、新規性が高く、比較的増殖が容易と考えられる、マタタビとモミジガサの簡易な苗づくり法を検討し、山村地域での特徴ある特産品づくりと活性化に繋げていく。

## [研究の成果]

### 【マタタビ】

- ①増殖は挿し木が容易であり、発根促進剤を使用しない場合でも発根率は89%と高かった。
- ②挿し床に腐葉土を加えても発根に影響はなく、生育も良好であった。
- ③育苗中の施肥には、速効性のある濃いめ(500倍)の液肥や窒素割合の多い化成肥料で生育が良かった。

### 【モミジガサ】

- ①増殖は挿し木が容易であり、発根促進剤を使用しなくとも発根率は93%と高かった。
- ②定植時の肥料は、鶏糞200kg/aが生長量・収穫量ともに多い傾向を示した。
- ③定植については、本県の自生地が標高の高い沢沿いであることから、林地を利用する場合は、水分があり、多少光の入る間伐跡地や林縁の利用が有効と考えられる。

## [成果の活用面・留意点]

- ①マタタビ、モミジガサの挿し木増殖は容易で、生産者個人で増殖が可能である。
- ②今後、里山(林縁)や遊休地を活用し、適地を判断して定植することが重要である。

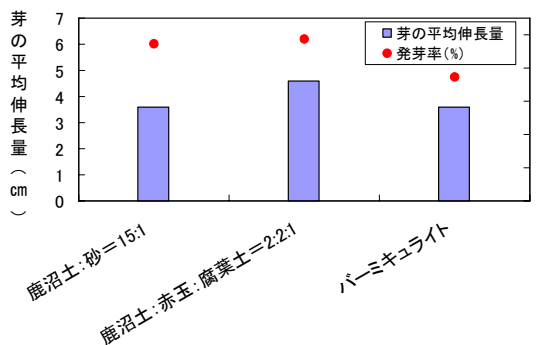


図1 マタタビ挿し床別発根率・芽の伸長量

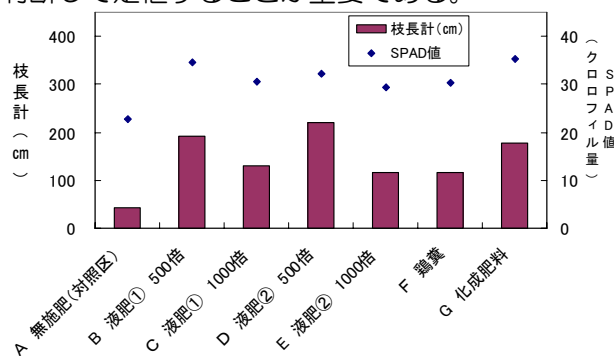


図2 マタタビの枝長計とSPAD(クロロフィル量)値  
※各肥料のN:P:K 液肥①6:6:6 液肥②7:4:4  
鶏糞2:6:6.5:3.3 化成肥料 10:10:10

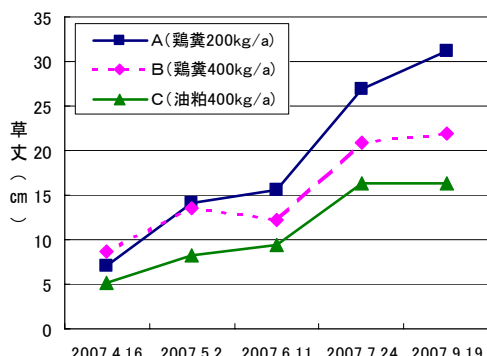


図3 モミジガサ草丈の変化



図4 マタタビの挿し木苗



図5 収穫時のモミジガサ  
※奥からA区(鶏糞200kg/a)、B区(鶏糞400kg/a)  
C区(油粕400kg/a)

(問い合わせ先 TEL : 0739-47-2468)